

## 窓口担当者が接客技術を競い合う

J Aバンクあきた

J Aバンクあきたアカデミー窓口コンテストが12月3日、秋田市文化会館で開催され、県内15 J Aから15組（2人1組）の窓口担当者が接客技術を競いました。

当 J Aからは二ツ井支店の山谷賢雄支店長と武田里美さんが出場し、来店者へ定期や年金受給口座の変更を勧める設定で行われ、デモシートを使って説明をしました。審査の結果、情報収集力や提案力に優れているとして見事特別賞を受賞しました。武田さんは「毎日、昼休みや業務終了後に支店職員のみなさんと練習したので焦らず対応ができました。今後も接客のレベルアップを目指していきます」と話してくれました。



▲出場した山谷支店長(左)と武田窓口担当(中)



▲ナイフで金を要求する犯人役の能代警察署員

## 強盗事件を想定し防犯訓練を実施

J Aあきた白神

金銭の出し入れが多くなる年末を迎えるにあたり、非常時の対応・役割分担等を確認するため12月7日、のしろ北支店にて、能代警察署と協力のもと、防犯訓練を行いました。

訓練では、犯人役の警察署員がナイフを持って職員を脅し、現金を要求する形で実施され、迫真の演技に圧倒されながらも、全職員が冷静な対応をすることができ、犯人の特徴を覚え、カラーボールを逃走車両に投げるなど、各々の役割を果たしました。また、「特殊詐欺」の防止訓練も行われ、窓口担当職員が「お話を聞かせてください」と声を掛けるなど、特殊詐欺の未然防止に向けた対応も確認しました。

## 不祥事防止体制へ理解を深める

J Aあきた白神

個人情報管理の徹底や重要性について理解を深め、コンプライアンスの確立、不祥事を起こさない、起こさせない職場風土づくりを目的に、J Aは全職員を対象としたコンプライアンス研修会を実施しました。

研修会では、「不祥事の状況とコンプライアンス」、事例紹介として「SNS情報漏えい」、「高齢者取引」について J Aから説明されました。参加者は「何気なく利用している SNS だが、取り返しのつかない事態になる恐れがあることがわかった。これからは不祥事防止へ向け、コンプライアンス遵守に努めていきたい」と話しました。



▲コンプライアンスの重要性を全職員で確認



▲廃プラスチック回収作業の様子

## 管内の3地域で廃プラスチック回収を実施

営農企画課

ビニールや肥料袋などの農業用廃プラスチックを回収し、J Aが代行処理申請を行う取組みが12月3日、各営農センターで行われました。

この廃プラ回収は、環境保全と不法投棄を防ぎ、使用済みの廃プラ類を適正処理するための手助けとして、年数回行われています。J A職員らが組合員からの処理委託に対応し、営農センターには、廃プラスチックを積んだトラックが次々と訪れ、管内全体で53人、約7.2 tが処理委託されました。利用者は、「J Aが私たちの代わりに廃棄処理をしてくれるので非常に助かっています」と喜んでいました。